text by Masaki Takahashi /photo by Yusuke Kashiwazaki

80's TOYOTA LAND CRUISER

多くのバリエーションを誇る60系のなかでも、クラシックなルックスで人気を誇る前期型のFJ60V。オリジナルコンディションに近い車両をランクル専門店のフレックス・ドリームで格安で発見して手に入れたという。

レトロクラシックなディテールに惚れた

1954年6月に誕生した「ランドクルーザー」は、トヨタ自動車の最上級モデルとされる四輪駆動車であり、世界でも屈指の知名度を誇るSUVだ。現在もランドクルーザーの名で継続生産されており、60年以上の長い歴史を持つ怪物的なロングセラーモデルであり続けている。

中でも1980年から89年まで生産された60系は、その角ばったレトロなスタイルから、今なお高い人気を誇っている。また60系こそが現行ランドクルーザーの原点となるボディスタイルを持ち、それ以前の前身モデルにあたる20、30、40、55系は軍用ジープのスタイルを踏襲しているため、SUVらしい雰囲気に欠ける。

60系の中でもさらに前期、後期と分類され、その違いは顔つきで一目瞭然だ。前期の60はライトが丸目であり、後期は角目なのである。好みはそれぞれ分かれるが、丸目を偏愛するファンは根強く存在する。

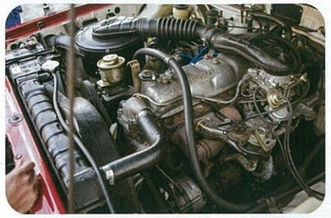
都内の電気工事会社に勤務する洲鎌太氏も、丸目60のルックスに惚れ込んだひとりである。愛車は1981年式のランドクルーザーGX FJ60Vだ。「丸目ライト、フェンダーミラー、観音開きのバックドア、ロールーフというお気に入りの条件を満たしたレトロクラシックな雰囲気のクルマはこれしかなかった」

四角いけれど四角過ぎない絶妙なボディラインも気に入っているそうだ。カスタムはしていない。キーレスシステムを後付したのみだ。搭載しているエンジンは4230ccの2F。パワーは申し分ないが、なにせ時代が経っているので、手なずけながら乗らなければならないし、それなりにメンテも必要だという。

「僕にとっては手のかかるところがいい。運転前は15分暖気しなければなりませんが、便利すぎるクルマはつまらない。クルマと対話をしながら乗るのが愉しい。トラックベースのモデルだからお世辞にも乗り心地はいいと言えません。ただ下手にスピードが出ない分、かえって安全運転になりますね。それでも一昨年の大雪の日、さすがにグイグイ力強く走ってくれました」

家族とキャンプに出掛ける時、あるいは洲鎌さんが夜中に孤独に浸りたい時に、この"ランクル60"が頼もしく寄り添ってくれるそうだ。

FJ61Vのエンジンはキャブレター式4230ccの2F。トルクをしっかり感じながら走れるエンジンと評価が高い。アメリカでは特に人気がある



装飾性を排したブラック一辺倒のハンドルやインテリアパネル。この男臭さと武骨さにしびれる。トランスミッションは4速MT

↑「走行中のエンジン音がほどほどにうるさいので、外部からの音をシャットアウトしてくれます。だから一人で考え事をしながら走るのにちょうどいい」と洲鎌氏。「でもスピードが出ないクルマなのでいつも安全運転です」

↑観音開きのバックドアも洲鎌氏をくすぐったポイントだった。キャンピングギアの積み込みもラクチンかつ効率的に行えるそうだ

取材協力:フレックス・ドリーム ランクル調布店 ☎042・486・8887 www.flexdream.jp

↑ランクル60系の前期モデルに採用された丸目ライト。60系ファンの中には、丸目偏愛者が多い。「この顔つきにランクル60らしさを強く感じるからです」

↑ブラウンベースのストライプ柄ファブリックをインテリアに使用。レトロモダンな雰囲気が際立つ。ボディカラーとのバランスも抜群だ

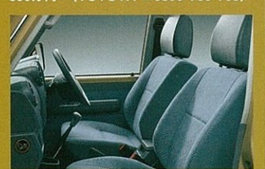
オフホワイトのホイールは購入時のまま。ルーフカラーとのコーディネイトが完璧だ。「走行距離が17万kmだったので足回りは新しく交換しています」

↑洲鎌氏がランクル60に惚れ込んだディテールのひとつに、このフェンダーミラーも挙げられる。「クラシカルな雰囲気だけでなく視認性も高いです」

NEW MODEL

TOYOTA LAND CRUISER 70

プラドに搭載されているV型6気筒の4.0Lのエンジンを搭載し、クラシックなボディパッケージで再販。セミロングホイールベースのバンのほか、ピックアップもラインナップしている。350万円～(TOYOTA ☎0800・700・700)



初代BJ型トヨタジープから60年経った現在でも真のオフローダーとして最新・最高の技術が盛り込まれてきたランドクルーザー。常にアップデートを重ねてきたトヨタを代表するモデルだが、クラシック・ヘビーデューティーな世界感の高まりと復活を望む多くのファンの声を受け、そのヒストリカルなモデルである70シリーズが2015年6月まで期間限定で復活している。各所に最新のパーツを使いながらも5速MTだけ設定されたトランスミッションなどは、まさに往時の"ナナマル"だ。